

PHL-6

1. セクション 1: 物質/混合物の名称および企業の名称

1.1	製品識別名	
	製品名	PHL-6
	化学物質名	混合物。
	CAS 番号	混合物。
	EINECS 番号	混合物。
	REACH 登録番号	割り当てられていない。
1.2	化学品の推奨用途と使用上の制限	
	記載されている用途	PhotostressR 測定結果
	~ に対して助言された用途	なし。
1.3	供給者の詳細	
	会社情報	VISHAY MEASUREMENTS GROUP UK LTD Stroudley Road Basingstoke Hampshire RG24 8FW United Kingdom +44 (0) 1256 462131 +44 (0) 1256 471441 mm.uk@vishaypg.com
	電話	
	F a x	
	E メール(担当者)	
1.4	緊急連絡用電話の番号	(00-1) 703-527-3887 CHEMTREC

2. セクション 2: 危険有害性の要約

2.1	物質または混合物の分類	
2.1.1	欧州 CLP 規則 (No.1272/2008)	急性毒性 区分 4; 飲み込むと有害である。 皮膚感作性 区分 1; アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。 特定臓器毒性(反復暴露) 区分 2; 長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ。 水生環境有害性 慢性区分 2; 長期継続的影響により水生生物に毒性。
2.1.2	指令 67/548/EEC および規則(1999/45/EC)	R33: 蓄積影響の危険性。 R43: 皮膚接触により感作を引き起こすことがある。 Xn; R48/22: 有害性: 飲み込むことによる長期暴露で重度の健康障害の危険性。 N; R51/53: 水生生物に対して有毒であり、水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼすことがある。

改訂: 1.1 日付: 20.05.2015

www.vishaypg.com

EC規則1907/2006 (REACH) 及び1272/2008 (CLP) & 453/2010 によれば

2.2 表示要素

製品名

危険性を表す絵文字

欧州CLP規則 (No.1272/2008) によれば

PHL-6



注意喚起語

危険有害性情報

警告

H302: 飲み込むと有害。

H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

H373: 長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ。

H411: 長期継続的影響により水生生物に毒性。

危険有害性情報

P273: 環境中への放出を避ける。

P280: 保護手袋/保護服/保護眼鏡/保護面を着用する。

P301+P312: 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は、中毒センターまたは医師に連絡すること。

P330: 口をすすぐ。

P302+P352: 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。

P333+P313: 皮膚刺激又は発疹が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。

2.3 他の危険有害性

なし。

3. セクション 3: 組成/成分情報

3.1 物質 製剤/混合物中の物質

3.2 混合物

EC分類 欧州CLP規則 (No.1272/2008)

物質の化学的特定名	%W/W	CAS 番号	EC 番号	危険有害性情報
6-methyl-2,4-bis(methylthio)phenylene-1,3-diamine	5-10	106264-79-3	403-240-8	急性毒性 区分4; H302 皮膚感作性 区分1; H317 水生環境有害性 急性区分1; H400 水生環境有害性 慢性区分1; H410
Aryl Mercuric Carboxylate	0.2	27236-65-3	248-355-2	急性毒性 区分2; H300 急性毒性 区分1; H310 急性毒性 区分2; H330 特定臓器毒性(反復暴露) 区分2; H373 水生環境有害性 急性区分1; H400 水生環境有害性 慢性区分1; H410
分類されていない成分	80-95	-	-	分類されていない。

改訂: 1.1 日付: 20.05.2015

EC規則1907/2006 (REACH) 及び1272/2008 (CLP) & 453/2010 によれば

www.vishayppg.com

指令 67/548/EEC および規則(1999/45/EC)

物質の化学的特定名	%W/W	CAS 番号	EC 番号	EC 分類 と リスク警句
6-methyl-2,4-bis(methylthio)phenylene-1,3-diamine	5-10	106264-79-3	403-240-8	Xn;R22: 飲み込むと有害である。 R43: 皮膚接触により感作を引き起こすことがある。 N; R50/53: 水生生物に対して非常に有毒であり、水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼすことがある。
Aryl Mercuric Carboxylate	0.2	27236-65-3	248-355-2	T+; R26/27/28: 吸入したとき、皮膚に接触したときおよび飲み込んだとき非常に有毒である。 R33: 蓄積影響の危険性。 N; R50/53: 水生生物に対して非常に有毒であり、水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼすことがある。
分類されていない成分	80-95	-	-	分類されていない。

4. セクション 4: 応急処置



4.1 応急処置の説明

吸入

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受ける。

皮膚接触

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯する。皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断/手当てを受ける。

目の接触

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

摂取

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。患者に水を飲ませる。医師の手当てを受けること。

4.2 最も重要な症状および作用（急性および遅発性）

飲み込み気道に入ると有害。長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ:

4.3 医師の手当てと特別な処置が直ちに必要な状態

症状によって処置する。

5. セクション 5: 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

望ましくは、水噴霧または粉末消火器で消火する。二酸化炭素

不適切な消火剤

知られていない。

5.2 当該物質または混合物に起因する特別な危険性

火災の時分解されて、有毒な煙を発生することがある。強酸化性物質と反応します。

5.3 消防士へのアドバイス

消火作業員は自給式呼吸器を含む完全な保護服を着用すること。フュームを吸入してはならない。

6. セクション 6: 漏出時の措置

6.1 人体に対する予防措置、保護具および緊急時措置

保護手袋/保護服/保護眼鏡/保護面を着用する。

6.2 環境的予防措置

排水路、下水道または水路に入らないようにする。(海洋汚染物質)

6.3 封じ込めと清掃のための方法および資材

流出物を砂、土または適切な吸収剤に吸収させる。流出物を閉じこめる。廃棄用の容器に移す。漏出した場所に多量の水を流して洗ってください。

6.4 他のセクションの参照先

次の項を参照: 8, 13

7. セクション 7: 取扱いおよび保管上の注意

7.1 安全な取り扱いのための注意事項

保護手袋/保護服/保護眼鏡/保護面を着用する。皮膚、眼および衣服との接触を避けること。本製品を取り扱っているときに、飲食、喫煙を行なってはならない。休憩前及び作業後には手を洗うこと。

7.2 安全な貯蔵のための条件 (不適合条件を含む)

乾燥した場所に貯蔵すること。不使用時には容器を閉じておくこと。

保管温度

常温の。

保管期間

普通の状態で安定。

混触危険物質

なし。

7.3 具体的最終用途

PhotostressR 測定結果

8. セクション 8: 暴露防止及び保護措置

8.1 管理指標

8.1.1 職業暴露限度

確立されていない。

8.1.2 生物学的限界値

確立されていない。

8.1.3 PNEC および DNEL

確立されていない。

8.2 暴露管理

8.2.1 適切な工学的管理

適切な換気を確保する。作業場所の近くに洗眼設備と安全シャワーを確保すること。

改訂: 1.1 日付: 20.05.2015

EC規則1907/2006 (REACH) 及び1272/2008 (CLP) & 453/2010 によれば

www.vishaypg.com

8.2.2 個人用保護具 (PPE) などの個人保護措置

目/顔面の保護



皮膚の保護



呼吸器の保護



熱の危険性

必要な個人用保護具を使用する。再使用する前に汚染された衣類を洗濯する。皮膚および目との接触を避ける。

液体の飛沫から保護するため保護メガネを着用すること。側板付き保護メガネ (EN166) を着用すること。きれいな水の入っている洗眼液の瓶を携帯する。

不浸透性手袋を着用すること。手袋素材の浸透時間: 手袋メーカーの情報を参照。

ゴム手袋を推奨します。

換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。

該当なし。

8.2.3 環境暴露コントロール

環境に排出しないようにする。

9. セクション 9: 物理的および化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性についての情報

外観	光。黄色。/琥珀色。液体。.
におい	軽微な。におい。
臭いの閾値	資料なし。
pH	確立されていない。
融点/凝固点	確立されていない。
初留点と沸騰範囲	資料なし。
引火点	149°C (SETA)
蒸発速度	<1 (BuAc = 1)
燃焼性 (固体、ガス)	非引火性。
上限/下限可燃性または爆発限界	該当なし。
蒸気圧	< 0.13 kPa (1 mm Hg)
蒸気密度	資料なし。
相対密度	1.03 (H2O = 1)
溶解度	難溶性。
分配係数: n-オクタノール/水	資料なし。
自然発火温度	該当なし。
分解温度	資料なし。
粘度	資料なし。
爆発性	資料なし。
酸化性	非酸化性。

9.2 その他の情報

なし。

10. セクション 10: 安定性および反応性

10.1	反応性	普通の状態ですべて安定。
10.2	化学的安定性	普通の状態ですべて安定。
10.3	危険な反応の可能性	知られていない。
10.4	避けるべき条件	熱源、炎から離して保管する。
10.5	混触危険物質	強酸化物類。イソシアン酸塩。無機酸
10.6	危険有害性分解生成物	決まっていない。

11. セクション 11: 有害性情報

11.1	毒性に関する情報 (製剤/混合物中の物質)	
	急性毒性	
	摂取	急性毒性 区分 4; 飲み込むと有害である。
	吸入	分類されていない。
	皮膚接触	分類されていない。
	目の接触	分類されていない。
	刺激性	分類されていない。
	腐食性	分類されていない。
	感作性	皮膚感作性 区分 1; アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
	反復投与毒性	特定臓器毒性(反復暴露) 区分 2; 長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ。
	発がん性	分類されていない。
	変異原性	分類されていない。
	生殖毒性	分類されていない。
11.2	その他の情報	なし。

12. セクション 12: 環境影響情報

12.1	毒性	海洋汚染物質に分類されている。
12.2	残留性および分解性	利用可能な情報なし。
12.3	生物蓄積性	利用可能な情報なし。
12.4	土壌中の移動度	利用可能な情報なし。
12.5	PBT および vPvB 評価の結果	PBT または vPvB に分類されない
12.6	その他の有害な作用	知られていない。

改訂: 1.1 日付: 20.05.2015

EC規則1907/2006 (REACH) 及び1272/2008 (CLP) & 453/2010 によれば

www.vishaypg.com

13. セクション 13: 廃棄上の注意

- 13.1 廃棄物処理法 この物質や容器は有害廃棄物として処理する。(2001/118EC). 法律に従い、前処理後にしかるべき危険廃棄物焼却施設に送ること。
- 13.2 追加情報 内容物を国、都道府県、市町村の法規に従って廃棄する。

14. セクション 14: 輸送上の注意

- 14.1 国連番号 ADR/RID / IMDG / IATA
UN 3082
- 14.2 適切な船積み名 環境的に有害な物質、液体、N.O.S.(6-methyl-2,4-bis(methylthio)phenylene-1,3-diamine)
- 14.3 輸送危険分類 9
- 14.4 輸送危険分類 III
- 14.5 環境に対する危険 海洋汚染物質/環境的に有害な物質
- 14.6 使用者に対する特別な注意事項 次の項を参照: 2
- 14.7 MARPOL 73/78 Annex II および IBC コードに準拠したバルク輸送 該当なし。
- 14.8 追加情報 なし。.

15. セクション 15: 適用法令

- 15.1 特に当該物質または混合物に関する安全性、健康および環境についての規制/法律
- 15.1.1 EU規制
使用の承認および/または制限 なし。.
- 15.1.2 国の規制 知られていない。
- 15.2 化学物質安全性評価 資料なし。

16. セクション 16: その他の情報

以下の項には改訂または新しい内容が含まれる: 1-16.

参考文献: 既存の安全データシート(SDS), 調和した分類 6-methyl-2,4-bis(methylthio)phenylene-1,3-diamine (CAS# 106264-79-3) と以下の分類・表示インベントリ Aryl Mercuric Carboxylate (CAS# 27236-65-3).

物質または混合物の分類 欧州CLP規則 (No.1272/2008) によれば	分類手順
急性毒性 区分 4; H302	閾値計算
皮膚感作性 区分 1; H317	閾値計算
特定臓器毒性(反復暴露) 区分 2; H337	閾値計算
水生環境有害性 慢性区分 2	積算

改訂: 1.1 日付: 20.05.2015

EC規則1907/2006 (REACH) 及び1272/2008 (CLP) & 453/2010 によれば

www.vishaypg.com

注釈

LTEL	長期暴露限界
STEL	短時間暴露限界
DNEL	求められた無影響量
PNEC	推定無影響濃度
PBT	PBT: 難分解性、生物蓄積性、毒性
vPvB	vPvT: 高難分解性、高毒性

研修アドバイス: 検討事項は、より高度なレベルの予防が必要になるかどうか決定するため、作業手順に関わることや将来的な被曝の程度に影響を及ぼします。

免責事項

記載の情報もしくは他の方法で提供された情報は最善の知見に基づき、誠意を持って提供しております。使用者は、これを参考として自らの責任において個々の取り扱い等の実態に応じ、適切なる措置をお取り願います。Vishay Precision Group はいかなる用途に対しても製品の適合性に関して保証するものではありません。法による場合を除き、暗黙の保証や条件 (法的なあるいはそうでない) はございません。Vishay Precision Group は、この情報に起因する損失または損害の責任を負うものではありません (欠陥製品が原因で死亡もしくは負傷し、そのことが証明された場合を除き)。特許、著作権および意匠のもと自由な使用权があるということではありません。

拡張安全性データシート(eSDS) の付録

利用可能な情報なし。